

市民プール及びトレーニングルーム仕様書

市民プール及びトレーニングルームは、プール・トレーニングルーム及び附属設備を一般の利用に供することを業務とし、指定管理者が行う業務の範囲は、この仕様書による。

1 施設の概要

(1) 名称

市民プール わくわくプール（以下「プール」という。）及びトレーニングルーム
わくわくトレーニングルーム（以下「トレーニングルーム」という。）

(2) 規模・構造等

ア 遊泳プール

水面積 425 m² (25 m × 17 m) 8コース

水深 1.2 ~ 1.3 m

車椅子用スロープ

イ 幼児用プール

水面積 80 m²

水深 0.45 ~ 0.65 m

ウ アクアコート

面積 150 m²

ジャグジープール・採暖室等

エ トレーニングジム

床面積 192 m² (16 m × 12 m)

オ フィットネススタジオ

床面積 112 m² (14 m × 8 m)

2 業務内容

(1) 市民プール（トレーニングルームを含む。）の管理運営に伴う業務

① 受付、案内、改札

ア プール・トレーニング会員受付事務

イ プール・トレーニングルームの利用案内

② 利用料金の徴収

ア 券売機、精算機の釣銭準備及び閉館時の料金回収

イ 券売機、精算機及び改札ゲートの日常維持管理

③ 利用者の誘導、整理、安全確保

ア 繁忙期における入場制限対策

イ 利用者状況の把握

④ 遊泳監視

ア 18歳以上40歳以下で、健康で業務遂行に支障がないもので救急法・蘇生法が実施できる者（普通救命講習修了者）を配置すること

イ 利用者への安全確認

ウ 溺傷病者等への迅速な対応と処置、状況報告等

エ 水質保全、公衆衛生の観点からプール利用規則の確認及び指導

⑤ 水質管理、衛生管理

ア 厚生労働省が定めた「遊泳用プール衛生基準」に基づくプール衛生管理者講習会の課程を修了したプール衛生管理者の選任及びプール管理責任者の選任をすること

イ 遊泳プールの衛生基準に基づき水質の測定の実施及び結果を報告すること

ウ 遊泳プールの衛生基準に基づき水質検査の実施及び監督官庁への報告

エ 利用者が、安全で安心して利用できる水質を維持管理すること

オ 塩素濃度の確認調整、補給水の調整を行うこと

⑥ スイミング教室の実施

ア 市民ニーズにあった魅力ある教室の企画と実施

イ 指導員として必要な知識・経験・技能（水泳B、C級指導員・教員免許等）を有した指導員の適正な配置

ウ スイミング教室指導における安全確保

エ 指導カリキュラムの作成

オ 進級テストの実施

カ 会員名簿の作成及び出欠状況の確認

キ 統計資料に基づく指導の検討

ク クリスマス会等イベントの企画と実施

ケ 備品等の日常管理

⑦ トレーニングルーム初回講習会の実施

ア 講師として必要な知識・経験・技能（健康運動指導士、健康運動実践指導者等）を有した講師を配置すること

イ 利用についてのトレーニングの意義、原則（①過重負荷②漸進性の原則③反復性の原則④個別性の原則⑤意識性の原則⑥全面性の原則）・トレーニングの種類（①有酸素運動②ウェイトトレーニングなど）・手順・諸注意事項の説明

⑧ フィットネスクラブの実施

ア 指導員として必要な知識・経験・技能（健康運動指導士、健康運動実践指導者等）を有した指導員の適正な配置

イ トレーニングルームにおける安全確保及び傷病者発生時の迅速な対応

- ウ トレーニング機器機能、効果を熟知し利用者に適切にアドバイスを行うこと
- エ 指導カリキュラムの作成
- オ スタジオプログラムの企画と実施
- カ 体力測定の実施と実施
- キ 会員名簿の作成及び出欠状況の確認
- ク 統計資料に基づく指導の検討
- ケ 利用規則の確認及び指導
- コ 機器及び備品の日常管理とメンテナンス
- ⑨ スポーツ、健康に関する相談の対応
 - ア 相談員として必要な知識・経験・技能（健康運動指導士、健康運動実践指導者等）を有した相談員の適正な配置
 - イ ニーズにあった適切なアドバイスを行うこと
- ⑩ 利用者の集計及び報告
 - ア 各利用状況の統計と報告
 - イ その検討と対策
- ⑪ 一般利用の実施等
 - ア 利用者の接遇、指導及び周知徹底
 - イ トレーニングルームにおける安全確保及び傷病者発生時の迅速な対応
- ⑫ 業務日誌の作成及び月報の提出

その他料金

トレーニングルーム会員利用料金

入会金（事務手数料） 2,000円

スイミングスクール会員利用料金

入会金（事務手数料） 2,000円